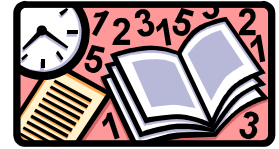


教科名

美術科

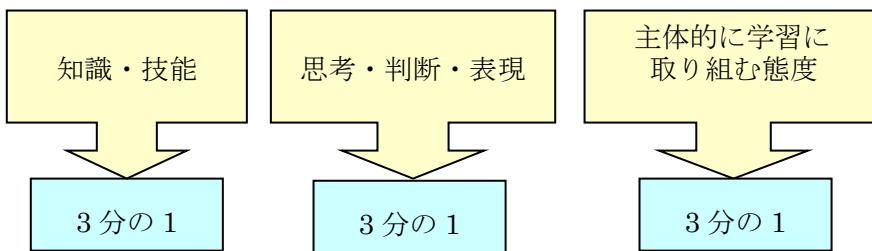


【年間計画】年間を通して、次に示すような単元を学習していきます。

月	第1学年	月	第2学年	月	第3学年
4	オリエンテーション	4	オリエンテーション	4	オリエンテーション
5	見つめると見えてくるもの	5	動き出しそうな動物たち	5	仏像に宿る心
6	↓	6	↓	6	あふれだす思いを～自分との対話～
7	絵文字をつくろう	7	↓	7	↓
8	↓	8	漫画表現の豊かさ	8	きらめきゆらめき
9	リアルを追求	9	日本の美意識	9	自分へ贈る卒業記念品～篆刻～
10	↓	10	視点の冒険	10	↓ 印面 デザイン
11	↓	11	↓	11	↓ 印面 彫刻
12	自分だけの花	12	水と墨が織りなす豊かな世界	12	↓ 持ち手 デザイン
1	高見えグラム	1	↓	1	↓ 持ち手 彫刻
2	印象に残るシンボルマーク	2	↓	2	↓
3	↓	3	デザインで人生を豊かに	3	あなたへ 明日への巣立ち

*表中の数字は、月を表しています。行事・時間割の切替え等で多少前後致します。

【教科における観点別評価項目】



特に、実技教科等は作品や実技に至るまでの姿勢や態度や、作品等を期日までに仕上げ提出することも大切です。これは、全教科のレポートやノート等の提出物についても言えることです。

また、最終的な作品の出来上がりの評価がすべてではありません。日々の授業の学習やプリント等で、授業中に学習した【基礎的・基本的な内容（教科書中心）】内容について確認が行われます。この時点で定着しているかどうかも大切になります。

1時間ごとの授業目標の達成・定着が「十分である」ことが、日々の評価Aにつながり、その積み重ねが、その観点の評価Aとなり、最終的に3つの観点別評価と、上に示された各観点の重みによって評定が出されます。

1 美術の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 授業の目標を以下の3観点から評価します。

1 知識・技能

- 知** ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。
- ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。
- 技** ・材料や道具の活かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。
- ・材料や道具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しを持って表している。

2 思考・判断・表現

- 発想** ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、創造したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
- 鑑賞** ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。

3 主体的に学習に取り組む態度

- 態表** ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。
- 態鑑** ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

子どもたちは目標を達成することで力を蓄え、より良い作品作りをすることで、心豊かに生活を創造する感性を磨き上げることができます。